

青少幼年センターニュース

青少幼年センター

ホームページ開設中 <http://www.higashihonganji.or.jp/oyc/>

「ひとりからはじめる子ども会」講習会 開催 「絵本ではじめる講習会」

「ひとりからはじめる・ひとりとであう」
— お寺の子ども会を応援します —

「ひとりからはじめる子ども会」

お寺で子ども会を始めたいけれど何から手をつければいいのかわからない、子ども会を続けていくためにはどんなことに気をつけたらいいんだろうか…。そんな悩みをお持ちの参加者が一同に集まり、「ひとりからはじめる子ども会」講習会が、五月十四日(火)と十五日(水)の一泊二日の日程で大谷婦人会館において開催されました。

この講習会の募集定員は十名でしたが、今回は定員を大きく上回る参加希望があり、先着で選ばれた参加者十二名、スタッフ九名という少人数で行われました。このような少人数で講習会を開催したのは、子ども会に関わるたくさんの方の相談ごとを参加者とスタッフが一緒に考えて情報交換するためでした。

当日は実際の子ども会を想定し、子どもとの関わりをもつスタッフがその経験を語りながら、講習がスタートしました。まず、子ども会での勤めをみんなで行いました。「ようこそ、ようこそ」という気持ちで子どもたちをお迎えする心配りや、子どもの目を見て名前を呼ぶことで緊張をほぐすといったコツなどを聞かせてもらいます。また、簡単で楽しい自己紹介ゲームを参加者・スタッフ全員で行い、子どもたちだけではなく大人の側も楽しく過ごせる雰囲気を感じていただきました。

その後、子どもに伝えるほけさまのお話の例・絵本の読み聞かせのやり方・簡単な手遊び・ゲームなどをそれぞれの分野のスタッフより紹介させていただきました。

夕食も子ども会を意識して、お寺の本堂でも作れるような設定でブルーシートを敷き、



実際の子どもの会を想定してのカレー作り

カレー作りを体験しました。種類の具材を用意し、作り手による味の違いなどもあり、面白い意見が言い合いながら、「こうやっただ方がいい」

「あやっただ方がいい」と、食事の時間も情報交換・交流の時間になりました。また、子ども会を開催する際の準備編として、安全管理の方法を一緒に考えるところにも、いざという時に役立つ保険の情報などもやり取りしました。

そして参加者には、個々のお寺の環境・子どもを取り巻く状況の違いがある中で、今後どういう子ども会を開いてみたいかということ、手書きの案内文の中に盛り込んで作成し、発表していただきました。一枚の紙に、みなさん生き生きと子どもたちへの思いを表現されていました。本当に子ども会を開きたいという願いが表されていたように思います。長い一日の終わり、夜は眠りにつくまで参加者・スタッフが十分に交流して、たくさん



講習の成果を発表する参加者

の笑顔が溢れていました。二日目には、班別座談の後、参加者が一人十分程度で話や絵本の読み聞かせなど(得意の落語や歌を披露される方もいました!)の発表を行い、参加者とスタッフ全員から一言ずつの講評を発表者に手渡しました。

全体的に盛りだくさんの内容で少々お疲れの方もおられたかと思えます。しかし、参加者・スタッフがひとつになつて問題を共有し、一方通行の講習会ではなく実践を取り入れたことで、子ども会を開く一歩を踏み出しただけたのではないかと思つていきます。

一人でもはじめられる、一年に一回からでも開くことができる。大げさなことをしなくてもいい、気軽に気負わずに、自分のやれる範囲でやれる子ども会。そして子どもたちに何かを教えるのではなく、共に学ぶということと一緒に体験する。子どもたちと共に仏事をつとめて共に遊ぶ。そういう子ども会作りを、各お寺でもはじめてみませんか。

青少年センターでは、このような基本的な願いを柱にして、「ひとりからはじめる子

ども会」講習会を今後も継続して開催していきます。皆さんのご参加を心よりお待ちしております。

「絵本ではじめる講習会」

青少年センターでは、お寺の子ども会を支援するひとつの方法として絵本の活用を薦めています。今回、大垣教務所の協力を得て、京都の絵本・児童書専門店「えほん館」の店長である花田睦子さんをお招きし、絵本の素晴らしさや楽しさをお話いただきました。

講習会は、大好きな絵本の世界に携わってきた花田さんの「絵本とは、道具です。人がいてはじめて生きる道具です。どんどん使ってください」というお話から始まりました。花田さんの関西弁も相まって和やかな雰



熱心に質問をする参加者

囲気の中、十五、六冊もの絵本を実際に読んでいただきながらのお話は、参加者の方の視線も釘付けで、楽しいものでした。以下、花田さんのメッセージをまとめました。

- 絵本とは、読んでもらうものです
- 赤ちゃんから大人まで、分け隔てなく。字が読めようが読めまいが、人に読んでもらうことで頭の中で絵が動きます。映像と絵本は別物です。
- 子どもは読んでもらう「おもしろかった」でいいのです
- 子どもは絵本で遊ぼうとします。子どもの中の「おもしろかった」は楽しい・悲しい・怖い・嬉しい・心が痛い、すべての感情のことです。大事にしてください。
- 私らしさを大事に読んでください
- 間違えても、スベっても、OKです。つぎの糧にしてください。また、一つの絵本でも読み手によって読み方・感じ方が変わります。読み方に人生が出ることがあります。その瞬間が、子どもの心のどこかに経験されます。
- 絵本には、おしまいがありません
- どんなに絵本の中に入り込み、想像の世界に浸ったとしても、「おしまい」のある安全な世界です。
- 最後に、花田さんは「絵本を読んでもらった体験は、子どもの中にとまっています。子どもの生きる力」が喜びです。その子なりの喜びの体験が生きる力になります。どうぞ絵本を使って子どもと一緒に時間を過ごしていただきたいです」と伝えられました。
- 青少年センターでは、今後ともお寺の子ども会活動に絵本や紙芝居を活用していただくため、このような講習会を開催していきたいと考えています。